

「値引」「返品」「割戻」そして「割引」

何だか似たような言葉で混乱しそうですが、順番に説明してまいります。

値引

値引とは、仕入価額または販売価額を下げることです。

< 取引例① >

A社は、B社より材料¥10,000を掛けで購入し、倉庫に搬入していたが、その一部に傷があることが判明し、¥1,000の値引を受けた。

材料購入時の仕訳

材料 10,000 / 工事未払金 10,000

値引を受けた時の仕訳

工事未払金 1,000 / 材料 1,000

このように、**値引は、逆仕訳**で処理します。

返品

返品とは、仕入れたものを仕入先に返すことです。

< 取引例② >

A社は、B社より材料¥10,000を掛けで購入し、倉庫に搬入していたが、そのうち¥2,000分が品違いであることが判明し、これを返品した。

材料購入時の仕訳

材料 10,000 / 工事未払金 10,000

返品した時の仕訳

工事未払金 2,000 / 材料 2,000

このように、**返品も、逆仕訳**で処理します。

割戻

割戻とは、一定の期間に、大量の材料を仕入れてくれた取引先に、代金の一部を返金することです。

< 取引例③ >

A社は、B社より材料¥5,000,000を掛けて仕入れ、倉庫に搬入していた。この支払いのため小切手を振り出し、その際、¥100,000の割戻を受けた。

材料購入時の仕訳

材料 5,000,000 / 工事未払金 5,000,000

割戻を受けた時の仕訳

工事未払金 5,000,000 / 当座預金 4,900,000
/ 材料 100,000

このように、**割戻も、逆仕訳**で処理します。

割引

割引とは、掛けで売買したものの代金が、その支払期日より早く支払われた場合に、代金の一部が割り引かれることです。

仕入の割引（割引を受けた側）なら『仕入割引』という**収益**の勘定科目。
売上の割引（割引をした側）なら『売上割引』という**費用**の勘定科目で、それぞれ処理します。

< 取引例④ >

A 社は、B 社に対する工事未払金¥100,000 を、
決済日より早く現金で支払い、¥500 の割引を受けた。

A 社の仕訳

工事未払金	100,000	／	現金	99,500
		／	仕入割引	500

< 取引例⑤ >

B 社は、A 社より、完成工事未収入金¥100,000 を、
決済日より早く現金で回収し、¥500 の割引をした。

B 社の仕訳

現金	99,500	／	完成工事未収入金	100,000
売上割引	500	／		

値引・返品・割戻 → 逆仕訳

割引 → 『仕入割引』『売上割引』

< 取引例⑥ >

A社は、B社に対する材料の掛代金¥100,000を、
決済日より早く現金で支払い、¥500の割引を受けた。

その際、誤って

工事未払金 500 / 材料 500

と処理していた。

修正仕訳を示しなさい。

まず、間違った仕訳を、逆仕訳して取り消します。

材料 500 / 工事未払金 500

次に、正しい仕訳をします。

工事未払金 100,000 / 現金 99,500
/ 仕入割引 500

修正仕訳は、この2つを合わせた仕訳なので、解答は、

工事未払金 99,500 / 現金 99,500
材料 500 / 仕入割引 500

となります。